

昭和町れんが倉庫群

アレイからすこじま近くにある赤レンガ倉庫は、呉海軍基地の一部として建設されたもので、昭和（1936～1989）の初めに遡ることができる。当時最高機密だった海軍工廠に建設されたこの倉庫は、海軍が大砲や弾薬を保管するために使用していた。英国の影響力が呉を形成したことを物語っている。

日本では 20 世紀までレンガは一般的な建築材料ではなかったが、帝国海軍は 19 世紀に英国王室海軍への貢物としてレンガを使用するようになった。これは 1870 年の勅令で、イギリス海軍が日本帝国海軍の発展のモデルとなることが決定されたためである。英国王室海軍は、1873 年から 1879 年までの間、帝国海軍に英国の伝統と技術を指導するために 34 人の任務を展開した。赤レンガ倉庫はこの関係の産物であり、呉がいかに国内外の海軍の影響を受けて形成されてきたかを象徴するものである。

もともとこの場所には 2 つの倉庫があったが、第二次世界大戦中の連合国軍の空襲で建物の後ろ半分が破壊されてしまった。倉庫は以前のように正確に修理されなかったが、その代わりに、爆撃で残った瓦礫を使って、2 棟の間の空き地に第 3 の倉庫を建設し、両者を繋いだ。

第二次世界大戦後、連合軍は赤レンガ倉庫を接收し、1956 年に英連邦軍が撤退するまでその

管理を維持した。その後、民間企業に買収された。現在、昭和の赤レンガ倉庫の一部は倉庫として利用されており、残りのスペースには売店などがあり、アレイからすこしまを訪れる人たちのための商売が行われている。